

平成19年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」表彰団体概要

板橋区（東京都） 人口：約512千人面積：32.17km²

板橋区は、行政・住民・事業者が環境に配慮した行動を取る事を決意を表した環境都市宣言を行い、行政・住民・事業者の3者が連携して環境に対する取組を行っている。区内の環境保全活動を行っている各組織を網羅した全区的な民間主導の組織を設立し、統一的な環境保全活動の方針決定・実施を行っている。また、区を18地区に分け、各地区ごとに自治会・事業所・商店等で構成する地区環境行動委員会を設立し、緑化推進活動や環境美化活動、各地域の特性に応じた環境保全活動に取り組んでいる。

また、板橋区には荒川の水辺等、豊かな自然が残されており、区では基本構想の中で環境との調和を揚げ、水や緑を中心とした環境の整備などの取組を進めている。

掛川市（静岡県） 人口：約115千人面積：265.63km²

掛川市では地球温暖化対策を推進するため、省エネ・省資源の推進、新エネの普及、ごみ減量の推進について、市民・事業者・市が協働して様々な事業に積極的に取り組んでいる。

レジ袋有料化の「掛川市マイバッグ運動」では、マイバッグ持参率が92%となり、「ごみ減量大作戦」ではごみ排出量は前年比8.5%の減量となっている。また、環境団体による資源回収を活用した学校への太陽光発電施設の設置、廃食油のBDF化とごみ収集車への利用や自然環境保護のため野生希少動植物の種や保護地区の指定などに取り組んでいる。

さらに、ボランティアによる不法投棄の清掃や、ISO等の認証取得支援などが実施され、市民環境力が高まっている。

牧之原市（静岡県） 人口：約50千人 面積：111.50km²

牧之原市では、エコアクション21の環境方針に基づいて、庁舎の環境マネジメントに取り組むなど、市の職員自らが率先して環境保全活動の取組を行っている。

紙類ごみを市と地域が連携してリサイクル活動を行う雑紙（ごつがみ）減量大作戦を展開し、リサイクル活動が地域のコミュニケーションの場になっている。行政と住民が協働でリサイクル活動や里山の間伐、海岸防風林の除草作業などの美化清掃活動などに取り組んでおり、美しい景観や豊かな自然の保全、環境教育の推進に努めている。

また、道路沿線の花壇の整備、アカウミガメの産卵地保護など、地域住民等の自主的な環境保全活動も盛んに行われている。

長岡京市（京都府） 人口：約78千人 面積：19.18km²

長岡京市では、『つむぎ織りなす“環境の都”長岡京』と将来都市像を定め、ここに集うすべての人々が参加し、一緒に協力しながら、自然環境、暮らしと経済・文化ともに豊かで、住み続けることのできる魅力ある持続可能なまちづくりを進めている。

家庭系一般廃棄物の分別、家庭から出る生ゴミをEMポカシ菌で堆肥化することによる生ゴミの減量、廃棄物減量等推進員による廃棄物の減量施策の検討などを行っている。また、スターウォッチング、バードウォッチング、キノコ観察会などの自然とのふれあい事業や市民環境フォーラムを開催し、自然環境の大切さを訴える取組を行っているほか、自治会を中心としたホタル保護育成も行われている。環境教育ミーティングを開催し、市民の環境学習の機会となっている。

佐那河内村（徳島県） 人口：約3千人 面積：42.30km²

佐那河内村では、「講中（こうじゅう）」と呼ばれる相互扶助組織や、「常会（じょうかい）」「名中（みょうちゅう）」と呼ばれる地域自治組織が古くから継承されており、これらの自治組織と連携しながらごみ分別・削減などに取り組んでいる。

地域自治組織が積極的関わったごみの分別活動、住民との協働による農業集落排水維持管理事業、村内で活動する環境団体等との不法投棄抑制への取組のほか、地域及び学校では、官民協働による環境学習が盛んに行われている。

直島町（香川県） 人口：約3千人 面積：14.23km²

直島町は豊島の産業廃棄物の中間処理事業受け入れを契機に循環型社会のモデル地域となることを目指し、エコアイランドなおしまプランを策定し、住民・事業者・行政が一体となって環境と調和したまちづくりに現在取り組んでいる。

リサイクル施設を環境教育・環境学習施設として利用しているほか、地元商工会と連携したマイバック運動、火災等で消失した山林を復元するため、民間事業者・ボランティアによる植林緑化事業、里山・田園の風景を「なおしま遺産」と位置づけ、美しい田園風景と文化を復興・再生し、継承するための取組などを行っている。

内子町（愛媛県） 人口：約20千人 面積：299.50km²

内子町は、小田川をはじめとする豊かな自然の中で、町内各地の特色ある地域文化を大切にしながら、「キラリと光るエコロジータウン・内子」をキャッチフレーズに掲げ、行政・町民・事業者が一体となって環境にやさしいまちづくりを推進している。

町職員が率先して節電、節水、ごみ削減などの環境配慮行動を実行するとともに、町民がその監査員となり地域に波及させる事で町全体での環境配慮行動への取組にステップアップさせている。町民との協働による町並み・村並み・山並みの各保存運動の展開、生ごみと家畜の糞尿による堆肥を利用し、地元産の食材を生産・提供することによる地産地消の推進、公共施設への木質ペレットストーブ・ボイラーの導入、バイオマス講座の開催、植樹を通じた子どもたちへの環境教育の実施など、豊かな地域資源を有効活用している。

